



銀
杏

発行所
〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行 瑞應寺
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127
<https://zuioji.jp>
毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社



頌

春

瑞應寺住職 金岡 潔宗



き、骨まで達してやつと走り出す馬。

第一の馬は、遠い町で亡くなつた人があることを伝え聞いて、それを自分の死のことを考え、うかうかしてはおれないと本気で人生に取り組む

ありましたが、生きた馬を奉納することが難しくなり、次

と、それが「絵馬」の始まりです。現代は、絵馬に願い事や感謝の気持ちを表し、神社仏閣に奉納し神と人をつなぐ手紙のような存在になりました。

第二の馬は、自分の町で亡くなつた人が出たことを聞き自分のこととして受け止める人のことをいいます。

第三の馬は、自分の愛する親族や友人の死を眼の前にしてようやく自分も死ぬのだと自覚し行動を表す人のことをいいます。

第四の馬は、自分自身が、いよいよお迎えが近いことを知つて初めて人生について考える人のことをいいます。

道元禅師は「光陰は矢よりも遅し」と説かれています。時間が刻々と過ぎゆくさまは矢

という名匠「左甚五郎」の作と言い伝えられる馬が奉納されています。

その馬は、生きている馬のようで、毎夜厩舎を出て農作物を荒らし、収穫の頃の稲穂を食べたとして村民が黒駒の両目を抜き取ったところ、以降耕作地を荒らすことが止んだと伝えられ、極めて素朴な作りですが、地域の人々からは、神馬として大切にされています。

馬を奉納することは、古代日本において神様が馬に乗つてこの人間の世界に降りてくると考えられていたことがあります。

一番目の馬は、騎手が鞭を振りかざしたその影を見て走り出す最も優秀な馬。

二番目の馬は、鞭が毛の先に触れてから走り出す馬。

三番目の馬は、鞭が肉に触れてから走り出す馬。

四番目の馬は、鞭が肉に触れてから走り出す馬。

黒駒というと、私が生まれ育つた岐阜県の飛騨一宮水無神社には、稻喰神馬（黒駒）

奈良時代には、神様にお願いする際に「神馬」と呼ばれる生きた馬を奉納する風習が

あります。

第一の馬は、遠い町で亡くなつた人があることを伝え聞いて、それを自分の死のことを考え、うかうかしてはおれないと本気で人生に取り組む

人の一生は草に宿る朝露よりもはかないという意味です。

お釈迦様の教えや道元禅師の教えのように、今年一年、一日一日大切に過ごし、すべてが、ウマくいくよう努めたいものです。



年々歳々、
歳々年々

後堂門原信典

「年々歳々花相似」はなあい「歳々年々人不同」ひとおな
（年々歳々花相似たり）歳々年々人同じからず」
これは古代中国の劉庭芝「白
頭を悲しむ翁に代わりて」と云
う詩の中の一節です。「白髪の老
人の悲しみを通して、年ごとに
花は変わらずに咲くけれども、
それを見る私達は身体も心も年
ごとに変わっている」過ぎゆく
時間の中で永遠に変わらない自
然と、そして限りある人間の無
常の悲しさを対比させていると
読まれています。しかし私は「花
相似たり」と「人同じからず」は
同義ではないかと思います。こ
の詩からの学びを年頭のご挨拶
とさせていただきます。

「梅は辛苦を経て清香を放す。」変わらないのは、梅と云う木の生命の営みとして、今年もやがて花開き、清淨な香りに包まれると云う事です。この私はどうか、確かに昨年の私と今年の私も同じではありませんが、相似ています。それどころかこの世界の生物、無生物の全ては時々刻々滅しては生じ、生じては滅しているのです。

これを刹那生滅と云います。この刹那と云う瞬間は指をパチンと鳴らす間に六十五あるそぐです。

俱輪と云う婆修盤頭大和尚（せしんばつ）（世親菩薩とも云われます。四〇〇—四八〇年頃のインドの人で、お釈迦様から二十一代目の仏祖）が書かれた仏教書には、百二十刹那を一怛刹那、六〇怛刹那を一臘縛、三〇臘縛を一牟呼栗多、三〇牟呼栗多が一夜二十四時間です。これを計算すると一刹那是今の時間で約

○一三秒、七十五分の一秒です。現在速さを競うスポーツでは百分の一秒まで計測されますが、音楽の世界でもその百分の一秒の変化で曲相が変わつてくるそうです。という事は私達が何となく感じ取れる最小の時間なのかも知れません。更に一刹那が一念いちねんと云われます。心が動く、思いが湧き上がる瞬間の事です。「念」と云う字は「今的心」と書きます。心も刹那に生滅していくのです。これを知る事によつて、私達は如何に生きるかに導かれるのです。

刹那を大事にする事は、一念を大事にする事。大事にするとはいひながら、誓願を持つてゐるか、常に自我と対峙する事です。この一念こそが私の身口意の三業を育て新しく生きるのであります。普通云われる刹那主義とは真反対です。

こんな事じや駄目だとクヨクヨしたり、それでも生きて行こうと葛藤するのも一念です。なとえ苦悩の内にあっても、そこから感情や思いも大切にして懺悔と誓願に生きる。「相似たり。同じからず」とは花(自然)も私達の生命も当たり前の如く運命を受け入れて時々刻々生きようとしている事です。

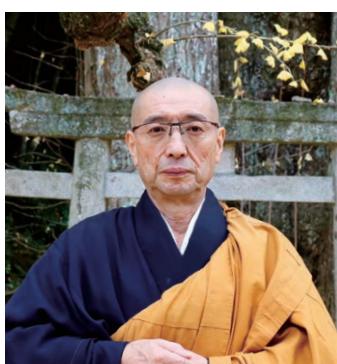
瑞應寺の樹齢八百年の大銀杏樹も昨年の夏に大きな枝が折れてしましました。しかし年々歳々変わらずに葉は茂り沢山の銀杏も生り、十二月には葉が散り黄金を敷き詰めたように成りました。

大銀杏も自然界の苦難にあります。でも銀杏としての一念、生命の営みを刹那に行じています。私

達の身体も心も刹那に変わり続けていますが、佛道修行に変わりは無いのです。人生も同じです。何時如何なる時も生命の営みは変わらないのです。

私は昭和五十五年の臘八攝心から参禅させていただいておりましたが、途中八年間通う事が出来ませんでした。しかし、再び参禅した時、歳々年々修行僧は入れ替わりがありますが、何年経つても全く変わらる事無く続く綿密の行持に「これがこの瑞應寺の家風だ」と胸が熱くなり、私の「安心」あんじんとして、更に坐禅への思いが篤あつくなりました。

近年修行僧も少なくなってきたましたが、道を求める心を忘れずに瑞應寺の家風を相続してまいりたいと願っています。「苔の一念岩をも通す」本年も皆様の参禪をお待ちする一念(年)です。



合掌

年頭所感



令和8年1月1日

い　ち　う　よ

謹んで新春のお喜びを申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひいたします。

除夜偶作

老蛇欲去馬将来

(老蛇去らんと欲して、馬将に来たらんとす)

除夜鐘声送旧廻

(除夜の鐘声、旧を送りて廻る)

雖互賀詞欣改歲

(賀詞を互して改歳を欣べども)

独懲到處課題堆

(独り懲ず、到る處課題の堆きを)

巳(へび)の年を見送り、午(うま)の年を迎えた。

顧みるに、昨年は諸事に追いたてられるように多用で、自坊の整備も作務も、僧堂の行持も、自己の研鑽も、全てが中途半端のままに過ぎてしまい、毎年の課題が未消化のまま堆く積もってしまいます。

修証義に「願生此娑婆國土し來たれり、見釈迦牟尼仏を喜ばざらんや」とあり、また、正法眼藏八大人覚に「南洲(娑婆世界)の人身すぐれたり、見仏聞法出家得道するゆえなり」と、いずれも道元禪師さまのお言葉です。

累世の誓願果か、既にお坊さんとして、お釈迦さまの教えをいた

だくご縁が具わっています。道元禅師さまの仰る最高に喜ばしい、すぐれた環境です。精進してまいりたいです。監事 阿部信宏

多々あり、そんな自分自身を情けなく感じ、日々の行持を積み重ねることが如何に大切であるかを痛感する一年でありました。

しかし同時に、日々の行持を一つ一つ思い出す中で、初めて仏道修行に触れた頃、出家をした頃の初発心に立ち返る思いがありまし

た。仏教に出会えた有難さ、修行道場に身を置くことの出来る喜びを、改めて感じる。そのような一年でもありました。

平成十二年に瑞應寺専門僧堂へ安居した折 法幢師様より「抜群無益」とご揮毫いたいた絡子を掛け上山いたしました。

高祖様は辨道法に

「發菩提心を百千万発するなり」

今年一年、雲水さん方とともに、

何度も何度も仏教に出会えた喜びを感じることの出来る一年でありたいです。

講師 曽根慎吾

宗門には、「身心一如」身と心とは一体で、日常の様々な行いに心を込めて行う。という教えがあります。それは、身体の所作を整えることを通して、自然と心が備わることを目指すものです。まずは、自分の身体をしっかりと整えて僧堂の行持に臨みたいです。

維那 吉松聖博

今感じていることは、自分の身體を整えることの大切さです。普段から書簡やメールの本文に相手を遣う文言を並べていますが、自身の事には全く無頓着に過ごしていましたように思います。巷では、

版下三聲二十霜 不離瑞應佛恩長來今往古大銀杏 丙午元朝風自香

瑞應寺の木版を三打し、修行に参じて以来ちょうど二十年。ご縁

をいただいて、今もここに居させ

ていただいている。日々を同じよ

うに過ごし、変わらぬつもりでも

環境も身体も当時からすれば様々に変化している。

いつも眺めている僧堂横の大イ

チヨウも台風や老化で大きな枝が

落ちたりしているが、幹はいまも

行生活。鳴らし物や法要の進退、行鉢の作法等、忘れていることが

差定で僧堂の行持を続けていて、人

員を要する法要を行なう機会は少なくなつたものの、雲納さんがいれば、なつたもの、雲納さんがいれば、多くご縁が具わっています。道元禅師さまの仰る最高に喜ばしい、すぐれた環境です。精進してまいりたいです。監事 阿部信宏

そのような大イチヨウの姿に倣つて、教えていたいたことをしつかり受け継ぎ、八風吹けど動ぜず、気持ちを新たになすべきことを務めていきたい。 知殿 古川承久

誠之

明けましておめでとうございます。昨年一年もあつという間に過ぎてしまいました。一年を振り返ってみるとたびに「光陰虚しく過ごすことなかれ」という一説の教えが心中に浮かんできます。この言葉が心に引つかることは、自分の日々の生活が満たされたこと、または歳月の無常が感じられる年齢になつていることでしょうか。

今年は『中庸』の勉強会が予定されていますが、今を生きるより所のことば、新年を迎える励みのことばを一つ紹介したいと思います。それは中庸思想のキーワードとも言える「誠」ということばです。「誠」の意味は「至誠無息」という四字熟語が示すように、「この上ないまごころ(至誠)は、決して息むことない」という誠実さの意味です。また、その「誠」は天地自然、または人間の本性の働きであると説明します。

「誠者天之道也。誠之者、人之道也」

（誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり。すなわち、天（大自然の営み）の道は誠実そのものであり、人間の道は天の道に従い誠実に生きるべきである。という意味です。

確かに、光陰（自然）の流れは、一年・十二か月・三六五日（四季・二十四季節）として間違いなく着々と変化しながら休まず動いています（至誠無息）。その天の道（自然の営み）を先人は「誠」（誠実）といふ言葉で表し、その「誠」（天地）のなかで生きる人間は今ここを「誠」（誠実にする）すべきであるといふ人間の本性の生き方を示してくれています。おのずと感嘆してしまいます。おのずと感嘆してしまいます。今年はこの言葉をより所にして精進してまいりたいと思います。

知殿補 金範松
逃げれば樂になる場面もあるけれど、それでは何も変わらない。うまくいかなくともやつてみる、怖くても一步出る。そんな積み重ねを大切にして、挑戦を続ける一年にしたい。

悦事 三宅俊尚

新年明けましておめでとうございます。
皆様は年末年始をどのように過

ごされたでしようか？道場では毎月の十五日と月末の半月毎に自分の修行を振り返り、略布薩と云う懺悔と礼仏と誓願のお勤めがあります。そして十二月は、この一年の私の身口意の三業を振り返り懺悔し、来年こそはと願いながら最後の布薩となります。本年の私の誓願は、道元禅師の「回光返照の退歩を学すべし」というお示しにあります。

自分の人生に、修行に不安が生じた時は、あせることなく二歩三歩退いて、謙虚に自らの在り方を振り返り、仏のみ教えに照らし合わせて自らの発心を顧みよ、と受けとめさせていただきます。

この世は無常無我の理の中にあります。その無常無我をいただいて、仏様に道を照らしていただき、皆様と一緒に至心に万事万縁と関わって一日一日を大切に過ごしたいのです。皆様の安らかな日々が続きます。よう祈念し、皆様と共に同行同修の菩薩行を勤めてまいりたいと誓願し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶とさせていただきます。

になりました。瑞應寺僧堂で過ご

あけましておめでとうございま

す。あつという間に新しい年を迎え、月日が経つ早さを肌身で感じてお

ります。今年で出家して十七年目

副典 楠本剛大

月の十五日と月末の半月毎に自分の修行を振り返り、略布薩と云う懺悔と礼仏と誓願のお勤めがあります。そして十二月は、この一年の私の身口意の三業を振り返り懺悔し、来年こそはと願いながら最後の布薩となります。本年の私の誓願は、道元禅師の「回光返照の退歩を学ぶべし」というお示しにあります。

自分の人生に、修行に不安が生じた時は、あせることなく二歩三歩退いて、謙虚に自らの在り方を振り返り、仏のみ教えに照らし合わせて自らの発心を顧みよ、と受けとめさせていただきます。

この世は無常無我の理の中あります。その無常無我を、ただいで、仏様に道を照らしていただき、皆様

していると、自分が尼僧堂で修行していた時のことを思い出すことがあります。あの頃と、今と、少しは成長したかな?と考えてみると、大した成長もしないまま月日を経てしまった感じもありますが、一つだけはつきりと言えることがあります。それは自分の中で、仏教と坐禅に対する信頼感が大幅に高まったことです。自分の人生そのものを通して仏教を眺めてみると、なんと素晴らしいこの世の理を示してくれているのだろう。ところは頭で理解してはいても、実践が伴つておらず、その意味を分かつていなかつたように感じています。今も道半ばではあります。今年も精進してまいります。

していた時のことを思い出すことがあります。あの頃と、今と、少しは成長したかな?と考えてみると、大した成長もしないまま月日を経てしまった感じもありますが、一つだけはつきりと言えることがあります。それは自分の中で、仏教と坐禅に対する信頼感が大幅に高まつたことです。自分の人生そのものを通して仏教を眺めてみると、なんと素晴らしいこの世の理を示してくれているのだろう。と今になつて思うのですが、若いころは頭で理解してはいても、実践が伴つておらず、その意味を分かつていなかつたように感じています。今も道半ばではありますが、

大衆年頭所感

「別れる男に、花の名を一つは教えておきなさい。花は毎年必ず咲きます。」

この言葉は、ノーベル文学賞作家である川端康成の小説の一節で、人の記憶に深く刻まれる方法をとても趣深く示しています。花が毎年咲くように、教えられたものは繰り返し思い出され、人生に息づいていくのです。

僧堂においても同じことが言えます。雲水はやがて僧堂を離れますが、そこで学んだ合掌やお拌といつた行持は、一生の営みとして

続
た行持を行なうたびに、注意された場面や失敗した経験が蘇り、修行の日々が記憶と結びついて蘇るのです。川端康成の言葉風に言えば、「別れる雲水に、行持を教えておきなさい。行持は一生行われます。」とも言えるかもしません。

私自身、修行を始めて一年しか経っていませんが、すでに「去年はこの行持でこう言われた」「あの時はここを失敗した」と思い返すことが多々あります。

だからこそ、自らの行持と結びつく記憶となる僧堂生活のこれから的一年を、後でふと思い返したときに「瑞應寺で修行できよかつた!」「あの頃の自分には負けられない」と思えるような、そんな充実した一年にしていきたいと思います。

瑞應寺では今、銀杏が色づき、落ち葉で地面一面を黄色く染め上げています。参拝の方々が寒空の下、興奮と寒さから少し顔を赤くしながら「まるで銀杏の絨毯みたい!!」と口をそろえておっしゃっています。私がこの風景を見るのは今年で二度目になりますが、これから先の人生で色づいた銀杏を見て、瑞應寺のことを思い浮かべないのは難しいと思います。

指に挟んで酸素を観る

パルスオキシメーター 命を守る電子の眼

高岩寺

来馬明規

東京巢鴨とげぬき地蔵尊高岩寺住職、医師、医学博士
東北福祉大学客員教授 日本禁煙学会会員



図1 パルスオキシメーターを左の人差指

に挟んで酸素飽和度を測定する筆者、
脈拍は毎分66 SPO_2 は98%と読める。
(ニカミフルタ社 PULSOX Neo)

【酸素飽和度は大切な医療情報】
パルスオキシメーターは新型コロナ
ウイルス感染が流行した時に、重症者の
早期発見と救命に活躍し、大きな話題になりました。当初は医療

新年おめでとうございます。
正月号のカラー印刷を活かして血液
中の酸素を測る装置、「パルスオキシ
メーター」についてお話しします
[図1]。(1)(2)
パルスオキシメーターは体温計
や血圧計のように日頃の健康管理
に活用してほしい医療機器です。
本稿では測定のしくみや意義につ
いてわかりやすく解説します。

パルスオキシメーターは体温計
や血圧計のように日頃の健康管理
に活用してほしい医療機器です。
本稿では測定のしくみや意義につ
いてわかりやすく解説します。
医療機関を受診すると、初診受付で
身長、体重、体温、脈拍、血圧などの
基本的な臨床情報を調べますが、
最近はパルスオキシメーターの測定値
である「 SPO_2 ・エスピーオーツ！
経皮的酸素飽和度」を加えることが
多くなりました。指に書類ばさみの
ような装置を5~10秒ほど装着する
だけで、脈拍数と血液中の酸素の
飽和度を推定する値(SPO_2)がたち
どころに得られ、病気の診断や重症度
の把握に役立つからです[図1]。

1. **動脈の血は赤く**
では、どのように血液中の酸素
を測っているのでしょうか？

私たちの血液が赤いのは、血の中に
静脈の血は赤黒い

ある酸素を運ぶ蛋白質「ヘモグロビン」
が赤いからですが、ヘモグロビン
には酸素の多い少ないで色が大きく
変わる性質があり、それは私たち
の眼でも認識できます[表1]。
たとえば鼻血が赤いのは酸素が多い
動脈から出血した血液だからであり、
酸素が少ない静脈から取った血液
だからです。酸素が多い動脈の血は
機器だと思っています。みなさまの中にはすでに手元に置いて活用してい
らっしゃる方もおられることがでしょう。
さて、私たちが体の不調を感じて
医療機関を受診すると、初診受付で
身長、体重、体温、脈拍、血圧などの
基本的な臨床情報を調べますが、
最近はパルスオキシメーターの測定値
である「 SPO_2 ・エスピーオーツ！
経皮的酸素飽和度」を加えることが
多くなりました。指に書類ばさみの
ような装置を5~10秒ほど装着する
だけで、脈拍数と血液中の酸素の
飽和度を推定する値(SPO_2)がたち
どころに得られ、病気の診断や重症度
の把握に役立つからです[図1]。

2. 血液は脈を打つ流れ「脈流」
私たちの体を流れる血液は、川の
流れのように速さが一定の「定流」では
ありません。心臓の拍動「ドキン、ドキン」
にあわせて血液が「ビュツ、ビュツ」と
流れます。このように速さや量が周期
的に変化する流れを「脈流」と呼びます。
周期的な流れの変化は手首の動脈で
「脈拍」として触知できますが、この拍動
は指先まで及び、指先の中の細い
動脈が心臓の拍動に合わせて膨らん
だり、しばんだりし、指先全体の
体積も0.5パーセントほど周期的に
変化しています[図2]。

3. 皮膚の色は脈流と共に変化
つまり、心臓がビュツ、と押し出した
酸素の多い赤い血は、指先の細い
動脈をコンマ何秒間の間膨らませ
ます。そして指先に「赤い血の割合」
が増え、それが周期的に微妙な、
指先の色の変化として現れます。
このような色の変化(光を通す性質
の変化)は、肉眼では認識できませんが、
指先に発光ダイオード(LED)で赤い
光を当て、指を通り抜けた光の量を

	色	動脈 静脈	見かける機会
酸素の多い ヘモグロビン	赤い	動脈	鼻血
酸素の少ない ヘモグロビン	赤黒い	静脈	採血

表1 ヘモグロビンは酸素の多い少ない
で色が変わる。

では、どのように血液中の酸素
を測っているのでしょうか？

1. **動脈の血は赤く**
では、どのように血液中の酸素
を測っているのでしょうか？

【パルスオキシメーターの原理】
さて、パルスオキシメーターの
特徴をあらためて説明しますと、
① SPO_2 を採血せずに連続的に
測れる② 装置が小さく携帯可能
で安価である③ 体動、外部光の
混入、血流低下・一酸化炭素など、
誤差の原因はよく知られており
対策も可能、などが挙げられます。

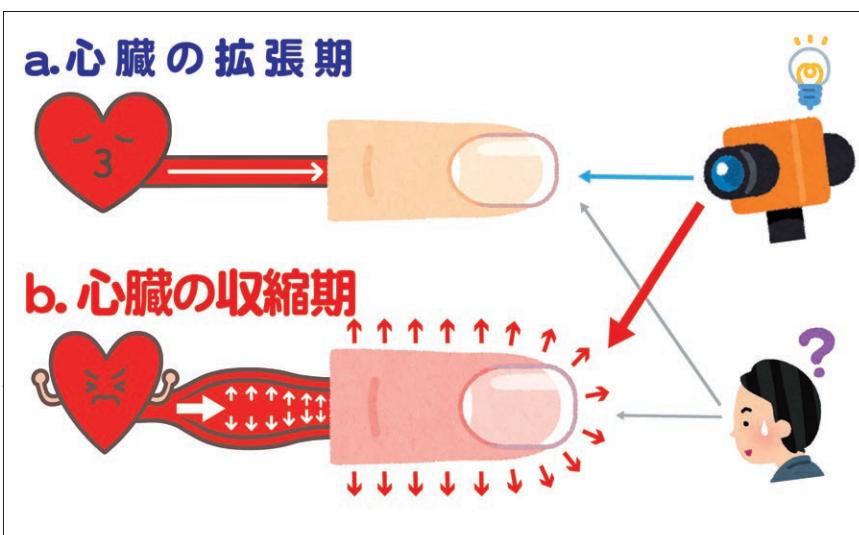


図2. 心臓の収縮に合わせて指先の赤い血の量が増えて 色と大きさが変化する。

- a. 心臓が休んでいるとき(拡張期)、心臓から指先に向かう血液は少ない。
b. 心臓が血液を送り出している瞬間(収縮期)、心臓から指先に向かう赤い血液が

動脈の壁を押し抜け、指先の色はより赤くなり、体積はより大きくなる(~0.5%)なる。
この現象は「電子の眼」では見えるが(○)、「肉眼」では認識できない(?)。

大きくなった部分が動脈の血液で充満していると仮定すると、 SpO_2 が計算できる。

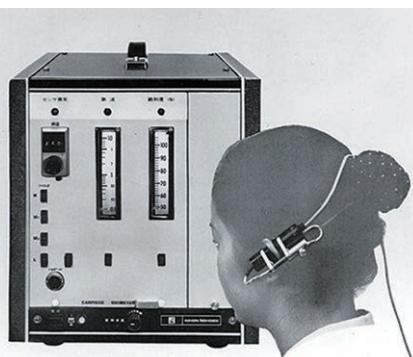
【パルスオキシメーターの応用】
パルスオキシメーターはすでにあらゆる分野で活用されています。列挙しますと、

- ③ 様々な病気の発見・診断・治療
睡眠時無呼吸症候群「図4」
慢性閉塞性肺疾患
(COPD いわゆるタバコ病)
循環器・呼吸器病の在宅医療
心不全 気管支喘息

【パルスオキシメーターの開発者】
日本の青柳卓雄先生
心臓の拍動が作る脈流によって、指先の色や大きさが微妙に変化していることは、かなり前から分かっていましたが、この現象を応用して「動脈血の酸素飽和度を測定する原理」を世界で初めて発明したのは、日本の技術者、日本光電工業株の青柳卓雄先生(1936~2020)でした。

青柳先生は現在の新潟県新発田市出身で、新潟大学を卒業後に医療機器の開発に従事し、パルスオキシメーターの原理を1974年に学会発表、日本光電は初号機を1975年に発売しています。

50年前のパルスオキシメーターはとても大きな装置で、当時は耳たぶで記録していました[図3]。その後、糸余曲折がありました。

図3 世界初のイヤオキシメーター市販機
(日本光電OLV-5100、1975年)図4 指輪型パルスオキシメーター
睡眠中の酸素飽和度 脈拍数 体動長時間同時記録できる。測定データはスマートホンで解析し、睡眠中の無呼吸発作を在宅でチェックできるすぐれた製品。測定に用いる赤色LEDの光が見える。(三栄メディシス社 チェックミーリング)

- 【お願い・予備の電池を備える】
- パルスオキシメーターは必ず予備の電池と一緒に保管してください。電池切れの定期的なチェックが大事です。

【謝辞】

日本光電工業株様に、写真(本稿図3)を提供いただきました。ここに深謝申しあげます。

青柳卓雄氏とパルスオキシメーター

世界中でパルスオキシメーターの研究が進み、結果として無数の人命が救われ、臨床医学の発展に大きな進歩をもたらしました。

生前、海外の研究者達がノーベル賞候補に推薦していたことが明らかになっています。ご存命であればノーベル医学生理学賞に値する業績でしたが、ご逝去が先になつてしましました。

アドバイスをインストールすれば、 SpO_2 が測定できますが、誤差が大きく、医療用としては正確性、信頼性に問題があるようですので、筆者はお薦めしません。

【附記・くわしく知りたい方に】

- パルスオキシメーターは赤色光と赤外光の2波長を計測していますが、本稿では簡略に説明しました。詳細は文献(1)(2)や、ネット検索でご覧ください。
- (1) よくわかるパルスオキシメータ 日本呼吸器学会編(2021)
 - (2) Q&Aパルスオキシメータハンドブック 日本呼吸器学会編(1)(2)はホームページからダウンロード可能。<https://www.jrs.or.jp>
 - (3) パルスオキシメータを活用した自己管理法 日本呼吸器障害者情報センター。<https://bnj-breath.jp/backnumber/oxyometer.html>
 - (4) 高岩寺では多機能モニターや小型パルスオキシメーターを常備し、参拝中に具合が悪くなられた方の救急対応に活用しています。脈拍・血圧・体温などとともに、 SpO_2 のデータを救急隊に提供し、救急外来を担当する施設と共有しています。

師 真道隆邦 瑞應寺修行の思ひ出話より 其の三

文責 山口県下松市 妙光寺住職

山縣洋曲

前回掲載させていただいた
後、予想外に多くの方々からの

難みが分からず、申し訳ない限り
だつたと何度も悔いております。

連絡に吃驚致しました。殆どは、
師へのお見舞いの言葉や励まし
などのお言葉でしたが、中には
「隆邦耳事件?」の時、実際にそ
の場に居り、とばっちりで一緒に
に叱責された方から、笑いなが
らご連絡いただき大変恐縮した
次第であります。



然しながら師は本人曰く、自分も一光老師からお手本を賜り懸命に励んだが、全く上達はしなかつたと繰り返し言つています。一緒に習い始めた周りの者は、皆それなりに上達し、來山者の記録簿や卒塔婆などをすらすらと書き込んでいくのを横目にみながら、忸怩たる思いで過ごしていました。

けではなく、華やお茶の作法、梅花の手ほどき、また特に書道に関するところでは、修行僧の多くが熱心に学んでいたからです。それは言うまでもなくその残された書が、未だに一般の方々さえも引き付ける、筆者の一光老師が在山させていたからに他なりません。

門僧堂は正に当時宗門では最高の方々が、正に親身になつて指導して下さつたのに、その時はその有

ある時、とうとう自分で卒塔婆を書き、ご法事に臨まなくてはならない時が来て、懸命に書いて持参し、供養の後瑞應寺様近くのお墓に施主と共に供えました。その

然しながら師は本人曰く、自分も一光老師からお手本を賜り懸命に励んだが、全く上達はしなかつたと繰り返し言つています。一緒に習い始めた周りの者は、皆それなりに上達し、來山者の記録簿や卒塔婆などをすらすらと書き込んでいくのを横目でみながら、忸怩たる思いで過

後年、師は拙の書いた卒塔婆の文字を見て、「まあ何事も向き不向きがあるから、丁寧にゆっくり書くことだけは心掛けろ」とだけ少し自嘲気味にいつも言います。考えるに拙の自他ともに認める下手な字の卒塔婆を見る度に、この事を思い出してい るのだと感じます。

と比べてあまりにも下手に思えて、以降は努めてそれが目に入らないようにしました。

しかし数か月後、どうしても居た堪れなくなつた師は、こつそりと卒塔婆を書き直しお墓に行き差し替えたそうです。最もそれでも、納得する出来栄えではなかつたようですが。

後、別件でお墓に赴き自分が書いた卒塔婆を見た際、周りの卒塔婆

精進してきたのだと言います。
そのきっかけとなつた話を聞いた事があります。

かれ経文を見て、戒尺を打たれて開経偈からの説戒は、滞りなく終えられました。

当時から恵光老師は、様々な行持に招聘され、在山日数より山外にての時間が多いたのが実情にて、残念ながら日常山内にて、上山当初は老師から、直接薰陶を賜る機会は殆どなかつたよう

違つていたよ」と、袱紗の中から「坐禅の仕方」と書かれた小冊子を

特に授戒会の戒師や説戒師の任に携わると、長期に亘り侍者と共に当該寺院に滞在を余儀なくされておられました。後世、真道の号を誇りとする原因是です。

手渡されたのです。それはその寺院の本堂入口にある山積みの参拝者用の坐禅手引き書でした。師はその時、本当に心臓が止まるくらいのショックを受けました。次の瞬間、誰か始まるまでのわ



ずかな時間に入れ替えたに違いないが、この場合侍者の不手際など叱責されても仕方がないと観念したそうです。

しかし老師は続けて「隆邦さん、あなたが原因ではない事は分かつてありますよ。心配しなくとも大丈夫です。」言われ、どつと汗が体

中から噴き出しました。それは、突然のアクシデントにも全く動じることなく、その時の説教をやり遂げられた老師への感嘆の気持ちと、自分に対しての温かい配慮から他なりません。

余談ですが、この話を聞いた拙は「差し替えられた老師の経文は見つかったのか」と質問しました。経文は、程なく老師の部屋前の廊下にある茶箪笥の上に見つかり、師は当然直ぐに報告したそうです。それを聞いた老師は「それなら、それでよい」とだけ静かに返答され、その言葉の調子とお顔の表情から誰が差し替えたのか薄々分かっている口ぶりにて、更に尊敬の念を強くしたとのことです。

前記いたしました様に、樺崎通元老師と師の尊き仏縁は老師が遷化されるまでの長期間に亘りました。今も拙は正直、以前から師があの通元老師を「通元

さん」と気安く呼称する度に、少し羨ましく且つ恐れ多い事だと感じています。

数年に一度、師の所望にて通元老師に拝問するため、老師の在山を確認し二人で自車にて赴く機会がありました。拙寺からで

すと、柳井港まで小一時間、フエリで二時間余り、更に三津浜港から一時間以上かけての行程です。師は、毎回その道中にこの寄稿文に記させていただいた

ような話を繰り返し車内にて訥々と話し続けます。

当時は、内心同じ話を聞かされ鬱陶しいと思つていましたが、今思い起こすと毎回通元老師と、修行時代の話を酌み交わすため大切なルーティンワークであつたようです。

瑞應寺様にてお茶とお菓子を賜り「先ずはお互に生きてまた

会えて良かった」と讃えあつてから話が始まります。ご縁の恵光老師を始め諸老師方々との思い出話や、古参、同安居の方の安否情報など、取り止めのない話がなますが、その間二人の笑顔が絶える事はありませんでした。

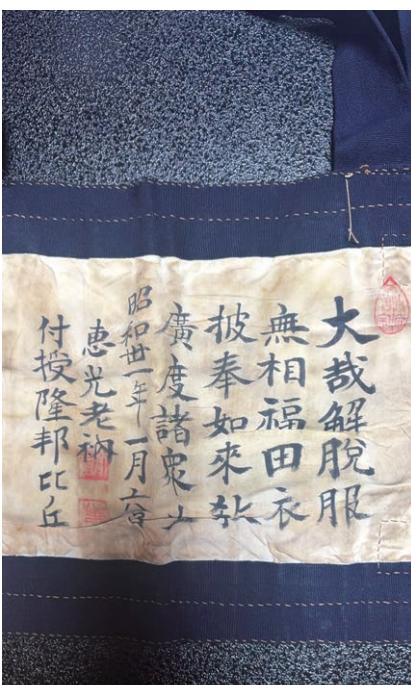
毎回、こうした二人が交わす

思い出話の中で必ず出る話題があります。それは、ある日の朝課前のことです。朝課に随喜するため支度をしていた師に対し、一光老師から声がかかります。あまり機嫌の良くない声の調子だったので恐る恐る老師の前に参じると、「隆邦さん、通元の姿がない。またどこかに隠れて朝課に出ないつもに違いない。探してきてくれ。」と言われました。

師は「はい」と即答はしたもの。の当時多くの修行僧がいた中で、何故私を直接名指ししたのか疑問に思つたそうです。「わかりました、しかし何故私にそれを命じられるのですか」と聞いたところ、一光老師は、「あなたと通元は同じ体型だから同じ所に隠れるでしょう」と返答されました。

それを聞いた師は、少しムツとしたのですが、一光老師が冗談交じりで言われたに違いないと思い直して、少し笑みを浮かべた途端、「早く探してこいと言つているんだ」とあの眼光鋭く睨み付けられてこれは本気だと感じ、朝課までに見つけないと自分で「ヤバい!」ことになります。またどこかに隠れて朝課に出ないつもに違いない。探してきてくれ」と言われました。

師は「はい」と即答はしたもの。の取つて置きの場所にて、ここに隠れたら誰も分からないと負う所です。そして、結果的には正にその場所に通元老師はこつそりと居られたのででした。二人は毎回、この話をして笑い声が一段高くなります。



未筆に、少しだけ通元老師と拙の縁を記する事をお許し下さい。拙が大本山永平寺の役寮を拝していた際、通元老師は本山顧問をお勤めでした。時折所用にて来山された時、お部屋にご挨拶にいくのですが、毎回拙が名乗る前に老師の方から「隆邦さんのお弟子さんだろ。覚えてるよ。あの小柄な人から、こんなに大きなお弟子さんが育つたのはびっくりしたからね。でも、名前は?」と言われるのでした。今もある意味、直接名前を覚えていたぐより有り難いことだと思う次第です。

場所については、通元老師の名譽のためにあえて記す事は致しませんが、拙はお二人のやりとりから師を名指しで探すよう

に任じた一光老師は、多分にこ



小参



臘八摶心

臘八摶心

釈尊成道の聖日を因み、
十二月一日(月)より八日(月)
暁天まで、恒例の臘八摸心を
修行。会中の供養施主に深謝。



令和七年臘八摺心

供養施主（順不同）

鳥愛愛香愛當
奴媛知川知
縣縣縣縣山山
玉泉寺南隆寺森川法雲總代會
禪興寺寶泉寺殿殿殿殿殿殿
殿殿殿殿殿殿殿殿

成道会・断臂摸心

十二月八日（月）臘八

開静、堂内朝課に引き続き成道会献粥諷経、小参（吉松維那）。行鉢は乳粥謹喫。午前、成道会正當諷経（金岡山主）。当山梅花講員による詠讚歌の中、出班焼香を厳修。

他、野菜、果物、菓子等
多數頂戴。

九日（火）、震旦二祖慧可大師断臂報恩の一夜摶心。翌朝三時覚眠、暁天只管打坐。続いて二祖忌獻粥諷経、二祖忌正當諷經（門原後堂）を嚴修。



成道会



ランタン

愛媛県	長崎県	福岡県	神奈川県	千葉元大殿
愛媛県	長崎県	福岡県	東昌寺殿	大満寺殿
愛媛県	長崎県	福岡県	洪徳寺殿	慈眼寺殿
愛媛県	長崎県	福岡県	宗安寺殿	法眼寺殿
愛媛県	長崎県	福岡県	高徳寺殿	道旧寺殿
愛媛県	鹿児島県	鹿児島県	高徳寺殿	地藏寺殿
愛媛県	長崎県	大中寺殿	西願寺殿	大通寺殿
愛媛県	長崎県	大澤慎士殿	義安寺殿	皓台寺殿
愛媛県	広島県	徳島県	觀音寺殿	觀音寺殿
愛媛県	広島県	新潟県	秀禪寺殿	秀禪寺殿
愛媛県	長野県	佐賀県	長全寺殿	長福寺殿
愛媛県	長野県	新潟県	坂本純香殿	坂本純香殿
愛媛県	鳥取県	佐賀県	功岳寺殿	広嚴寺殿
愛媛県	香川県	長野県	村上泰助殿	東光寺殿
愛媛県	香川県	長野県	戸梶元斎殿	功岳寺殿
無量寺殿	無量寺殿	北谷寺殿	北谷寺殿	北谷寺殿
竹林千代惠	竹林千代惠	竹林千代惠	竹林千代惠	竹林千代惠

銀杏は諸般の事情により、今後は隔月にさせていただきますので御理解いただきたくよろしくお願ひいたします。

銀杏感謝錄

十一月の日鑑

一日	祝祷
二日	臘八摶心（八日迄）
三日	成道会
四日	断臂摶心（十日迄）
五日	震旦二祖忌
六日	大本山永平寺從業員研修旅行瑞應寺參拜團①
七日	日曜参禪会
八日	十四日
九日	十五日
十日	十六日
十一日	十七日
十二日	十八日
十三日	十九日
十四日	廿一日
十五日	廿二日
十六日	廿三日
十七日	廿四日
十八日	廿五日
廿一日	廿六日
廿二日	廿七日
廿三日	廿八日
廿四日	廿九日
廿五日	三十日
廿六日	廿九日
廿七日	三十日
廿八日	廿九日
廿九日	三十日
三十日	三十日